第８号
2013. 12

青梅のにじ

〈発行〉
日本基督教団 隠退教職ホーム　〒198−0052　東京都青梅市長淵2−687
にじのいえ信愛荘　電話：0428−22−2283　FAX：0428−22−2317
運営委員会　須藤　繁　Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp
振替口座番号 00120−3−358467
加入者名：にじのいえ信愛荘

にじのいえ信愛荘に寄せて

日本基督教団　総幹事　長崎　哲夫

「この子は、自分の民を罪から救うからである」
（マタイ福音書1・21）

隠退教職ホーム日本基督教団「にじのいえ信愛荘」の皆さんをはじめ、主にあって荘をお支えする全国の教会の先生方と兄弟姉妹の上にアドヴェントの主の恵みと平和がありますように。

わたしは「にじのいえ信愛荘」のことを考えますと、いつも心の内に震えるようなある種特別の思いが沸き立つのを覚えます。それが何であるかは、一言では言えません。

強いて申しますなら、最早かれこれ40年前、当時東京教区西支区開拓教会の一牧師として、教団や教区の激しい紛争の混乱の中にも、合併前の「にじのいえ」も、「信愛荘」でも運営の手を休むことなく、支えて来られた先輩教職や信徒の方々の労苦とその姿を見ていたからかも知れません。また、様々な紆余曲折があったとしても、と言うよりそこに多くの方々の祈りや励ましを得て両施設が合併され、同時に今のB棟建て替え事業の顛末が思い出されるからでしょう。更に、それらの道を経て今日の真に落ち着いた荘の様子が伝えられているからです。

言うまでもなく、「にじのいえ信愛荘」は日本基督教団の隠退教職ホームです。その全生涯を主と教会を愛し、全精力を傾けて信徒らを導き守った牧者が隠退され、教会を離れ、自由にしかも静かにその羽を休めることができる憩いの家です。このために必要な全てのことは、信徒の手で行なわれているのです。それらは、ボランティアに近い働き手の労と運営の原資は有志の献金とによって成っています。

今、わたしは本年7月に出された「にじのいえ信愛荘献金報告」（2012年度）を見ています。北海道から沖縄まで全教区の教会と有志、その他幼稚園から大学までの生徒や学生等、何と多くの人々が心を込めてこの家を覚えて支えて下さっていることでしょう。このことは、あの3・11の大震災があった時も変わらぬことでした。見逃せないのは、「にじのいえ信愛荘」の方々が、イースター、クリスマスほか日常の礼拝献金をこんなにも多く献げられておられることです。

あの建築工事を進めていたある時、工事関係者の口から、「ここにおられる方々が読書や、お祈りをされる姿を目にする。よそでは見られないことだ」と聞きました。真摯な先輩方の日常生活が垣間見られた一瞬ではあったでしょう。

しかし、わたしはそのような光景に尊敬の念を抱きながらも、もう一方でもっと気楽に、人としてのぶざまさも生活の一部なのですから、ご無理なく楽しいものとなりますようにと願っています。主にある皆さんに、祝福をお祈り申し上げます。

黙想　〝降誕の恵み〟

見えるもの↑視えないもの

加藤　実

「初めに言があった」というのと「はじめに神は天と地とを創造された」というのとでは、だいぶ異なるように聞こえながら結局は同じことを言い表しているのですが、どちらかと言うと、創世記冒頭のほうが解り易いようです。うん、そうだ、この世界は神様が支配しておられるんだといった具合に、割りにすうっと受け容れられるかもしれませんが、ヨハネ第1章のところなどは、まるでピンと来ない、何だそれ、ということになるようで、更に続けて「言は神と共にあった。言は神であった」などと言われると、ますます解らなくなります。これは一つには、わたしたち日本人が《ことば》というものをすっごく粗末にしているからですが、もう一つには聖書というものが、とりわけヨハネ福音書が、ことばなるものを重〜く受け止めていた人々、世界の中で書き記されてきたからでしょう。ですから直訳風にではなしに、その言わんとしている深〜い意味を聖書全体から汲み取った上で、思い切った意訳のようにしますと、これは「初めにキリストがおられた」ということでしょう。「初めにキリストがおられた。キリストは神と共に居られた。キリストは神であられた」ということでしょう。

1919年に百年かかって改訳し終えた中国語の聖書では、「そもそもの初めに道（タオ）があった」となっています。中国のカトリック教会の聖書では、「初めに聖言（御言葉）があった」、聖なる言葉があったと訳されています。社中訳と謂われる日本語の最初の新約聖書は明治13年（1880年）に出版されたのですが、そこでも「はじめ（太初）にことば（道）あり」となっていて、道という漢字の右側にルビのように「ことば」と振られた平がな文が正式な訳文で、漢字は参考までに敢えて残されたものとされています。

版画：渡辺禎雄

日本語の世界では道理の道、道徳の道でして、酷いじゃないかと云う場合のひどいは道に非ざる非道と書くわけで、人として守るべき途、人間の生き方としてのまともな在り方が道、みちです。お花とかお茶とか、きちんと作法どおりにしていくことによって養われるべきものが、単なる外側の形の格好よさではなくて、パチッとした心の姿勢であることから、正式には華道とか茶道とか云われるのだということを、少なくとも頭では知っているのがわたしたちであり、柔道や剣道の道に武士道の道も、本々はそうした心をまともに整えることにあったわけですけれども、残念ながら現実は理論どおりには必ずしもいっていないようです。

それにしても、日本人の古くからの感覚の中に多少なりとも受け継がれてきている、人間としての内面のまともさを大切にする想いに通じるもので、それよりももっともっと深〜く豊かなものが、中国の古い精神文化の中に道（トウ、タオ）と称されるものとしてあって、ギリシャ語世界の2千年前の思想の中にも、ロゴスといわれるほぼ同じようなものがあったことから、「初めにロゴスがあった」という原文を「初めに道があった」と訳すことができ、そこから「初めに言があった」という訳に変わってきたのです。

つまり「初めに神は天と地とを創造された」という御言は安っぽく受け取ると、外側のもの、この世界の眼に見えるものとしての天とか地とか人間とかを神様が創り支えているかのように感じられるために、ちょっぴり解り易いのに対して、「初めに言があった」、「はじめにキリストがおられた」というのは、極めて内面的な意味での神様のご支配を言い表しているもののために、解り難いのでしょう。見えるものにわたしたちの心が引きずられて、眼に見えない大事なものをつい粗末にしてしまう、人間の浅薄さのなせる業でしょうか。

つまりは、真実なる人間として最もまことなるもの、誠なるものの塊りみたいなのが、そもそもの初めから天にあって、それが『肉体となり』わたしたちのうちに『宿った』のが、降誕の恵みということになりましょう。

にじのいえ信愛荘
クリスマス会において

東京聖書学校3年　阿部　晋也

この度は広報誌「青梅のにじ」に、執筆させて頂きますことを感謝いたします。

私ども東京聖書学校は、毎年「クリスマス会」を「にじのいえ信愛荘」で行い、ご入荘の諸先生方や職員の方々と交流の時を持っております。クリスマス会の内容を簡単にご紹介いたします。まず、昼食を兼ねて交わりの時を持ち、皆様方とお話の時を持ちます。この時は、諸先生方の信仰のお話、励んで来られた牧会でのお話などを拝聴することができ、学生にとって大きな学びの時となっております。また、時には冗談を交えたお話をされる先生もおられ、学びと同時にとても楽しい時を持たせて頂いております。

この交わりの時の後に礼拝が持たれますが、この礼拝の中で、聖書学校学生による演劇を行います。この演劇は、聖書の中より抜粋し、時には感動的に、時にはコミカルに演じ、東京聖書学校の伝統となりつつあります。昨年は、ルカによる福音書19章1～10節より「現代版・徴税人ザアカイ」と称し、ザアカイのお話を現代風にアレンジして演じました。毎年、「とても楽しかったです」などとお声をかけて頂き、皆様にお楽しみ頂いておりますようで、私どもの喜び、そして励みとなっております。その他には賛美の時を持ち、舎監・教職によるショートメッセージの時を持つなどしております。

このクリスマス会を通じて思わされることは、まずご入荘の先生方の生き生きとしたお姿に感銘を覚え、本当に主に祝福されていらっしゃるな、ということです。共に賛美させて頂く時の諸先生方のお声は大変力強く、そしてお話をされる諸先生方は、主にある喜びに満ち溢れておられます。そして、次に思わされることは、祈りについてです。諸先生方より、東京聖書学校のため、そして私たち学生のためにお祈りくださるのですが、その祈りの中に深い愛を感じました。真に私どものために祈ってくださることがひしひしと伝わってきて、本当に感謝の思いで満たされました。このように、「にじのいえ信愛荘」のクリスマス会を通し、多くのことを学ばせて頂いております。私たち学生一同も、諸先生方のように、主にある喜びに満ち溢れて学生生活、そして牧会の業に励んでまいりたいと思わされる次第です。

今年も「にじのいえ信愛荘」にてクリスマス会を持てることを楽しみにしております。今年のクリスマス会に向けて、演劇の聖書箇所の選定、そして劇の練習などを行っております。是非、ご期待くださればと思います。今年もまた、クリスマス会の交わりの中で、また多くのことを学び、そして諸先生方、職員の方々と楽しい時を持ち、主の御降誕を祝い、賛美してまいりたいと思っております。諸先生方と職員の皆様の祝福とご健康をお祈りいたします。

追悼

故　大里　和子姉
2013年８月３日召天

大里和子さんを偲んで

井村　輝子

和子さんが「信愛荘」に入られてもう17年になるでしょうか？

月日の流れの速さに驚くばかりです。旧性「鹿野和子」さんに初めてお会いしたのは62年前ですものね！　大きな目をくりくりっとさせて可愛い八重歯もちらっとのぞかせて…ご一緒に大阪城北教会付属の藤が丘幼稚園に奉職、貴女は年中さんを、私は年少クラスを受け持ちました。

そして、和子さんは、船本坂男牧師のもと、献身を決意されて阪大医学部から関西学院大学神学部に転籍され卒業された、大里喜三牧師の愛を受けられてご結婚されたのですね。

神様の祝福のうちにお幸せな船出をされたのに、大里牧師は47歳という若さで脳出血で天に召されてから、どんなにかご苦労があったことでしょう。

でも、才能豊かな貴女は学院の事務の仕事をされながら、幼い三人のお嬢様の子育てを、一意専心ご立派に全うされました。

その後の生活の拠点を「信愛荘」に求められたことは、三人のお子様と残される和子夫人を憂いつつ、天に召された大里牧師もさぞご安心なさったことと思います。なお、船本坂男牧師の著書「愛は溢れる」の中の「ますらおの死」にもそのことが書かれています。

「信愛荘」に入られてからも、教文館や、伊東屋に出かけたり、二人で良く銀座を歩きましたよね。でも、もっとお会いしておけば良かった、もっとお電話をしたら良かったと思うばかりです。

すべてのこと、神様の良きお計らいだったと思うことで、私自身を納得させています。

心に残るたくさんの良き思い出をありがとうございました。

（東京・松戸教会員）

（注）合併により２０１０年から「にじのいえ信愛荘」となりました。

◆自己紹介

入荘を許されて

山添　和加

２０１２年６月３日、娘の運転する車に乗って病院から「にじのいえ信愛荘」にまいりました。以前に伺った時は訪問者としてでしたが、今回は入居者としてです。神様のお導きと深く感謝しています。荘の玄関には多くの方々が出迎えてくださり、自分の家に帰ってきたような安堵感がありました。「和加さんのお部屋はここですよ」と案内されて入ったら、新しくきれいなお部屋。これからここで暮らすのだと思うと、さまざまの思いがあふれて胸がいっぱいになりました。

信仰を同じくする方々と暮らせるとは何という幸いか。先輩の方々から学ぶこともたくさんあるでしょう。未熟な人間であることを恥じるのではなく、共にはげまし合って生活すること。イエス・キリストがいつも共にいてくださること。私はここでおちついて信仰の道を、主イエスに従って行こうと思いました。

◆自己紹介

入荘の恵み

浅野　悦昭

このたび10月２日に、入荘の恵みに与りました。みなさまのお祈りとご支援に対して、心からの感謝を申し上げる次第です。

私は、１９３０年７月20日、東京の代々木上原に生まれ、父は鉄道省の設計技師、母はクリスチャンでした。１９５０年に母の所属する池袋西教会において、金井為一郎牧師より受洗しました。

東京神学大学卒業後、東京都東久留米市内の父から譲り受けた土地に約８坪の家を建て、池袋西教会の祷援を受け、夫婦で開拓伝道を始めました。これが東久留米教会の第一歩です。

以後、１９９６年の隠退までの36年を歩ませていただきました。その間に幾度か「信愛荘」を訪ねましたが、将来、自分が入荘するとは夢にも思いませんでした。

すべてが神の摂理であり、感謝の日々を過ごしております。

Essay

朝の散歩

飛田　悦子

―4月15日―

朝食の後、荘の周りを杖を突いてひと廻りする。玄関の東側の路が整備されて歩きやすくなった。隣の梨園の芽の緑が日に日に色を増している。裏山の緑も日毎に濃くなっている。花壇の花々も日増しに笑みを増している。チューリップの花は今満開だ。冬の間眠っていた花々が目を覚ました。パンジーが美しい。牡丹の花も次々に開いている。裏山で鶯がホーホケキョと鳴いている。晩春だ！

朝の散歩をされる同居の人と出会って黙礼をする。荘内だけを歩いて道路には出ないお互いである。お互いが何かを考え、何かを口ずさんでいるのだ。お互いに神様のお守りを感謝しながら―。「にじのいえ信愛荘」での朝の散歩のひとときである。朝の散歩！信仰の杖をしっかりにぎりしめて―。（感謝）

―5月29日―

朝食後、ひと休みして10時前に散歩に出かける。荘の外には出ないで、園内を一周して、今日は左まわりにしようか、右まわりにしようか、今朝は右回りにしよう。

裏庭の正面には入居の方々が手がけて居られる「一坪花壇」があって、それぞれに美しい花を育てて居られる。これを見ながら建物の裏路を通って右にまがると此処は業者によって作られた花壇で今色々な花が咲いている。備えてある椅子に座ってひと休みして、詩編121編を大きな声でとなえる。

「われ山に向かいて目をあぐわが助けはいづこより来たるやわが助けは天地を創り給える主より来たる」アーメン

この後しばらく休んで、やおら〝どっこいしょ〟と立ち上がり玄関前の広場に出ると、丁度お隣の奥様がたが洗濯物を乾かされる時間である。言葉を交わすことはないが笑顔で挨拶する。毎日ではないけれど面白い近所づき合いである。

自転車置き場を通って東側の路は最近きれいに舗装されて広くなり、歩き易くなった。そこを通って3段の石段を上ると見晴しのいいこと。

〝いらかの波と雲の波、重なる波の中空をたちばなかおる…〟と唱歌を口ずさみながら周囲を見渡すと、色々な色をした街並みの向こうに、山々が静かにそびえている。静かな五月晴れの景色である。裏庭に1本だけある梅の木は今年生り年であった。小さな中庭に柏井姉が作っておられる花壇が美しい。私は「柏井花壇」とよんでいる。そこをゆっくり見て回り、右に廻って部屋の前でひと休みする。裏山は静かで、眠ったように静かである。

誰も居ない自分の部屋に帰り「只今帰りました」と言って時計を見ると11時になっている。丁度1時間の散歩であった。

これが私の毎日の健康法である。雨の日は、ホールを3周している。

―秋深まり行く―

食堂の私の食卓からよく見える中庭の、春には美しい花を咲かせた木が、今は緑の葉だけを残して落ちもしないで枝にくっついている。まるで私の老いた姿を見せられている様である。でも黒ずんだ花の後に、今小さな実がついている。『うめずあおい』というそうだ。やがてたくさんの実をつけるであろう。私はそう思いながら『うめずあおい』の木をながめている。

玄関の横の路は雑草が伸びている。私はこれを踏んで3段の石段を上ると向こうの街並みは秋の景色である。晩秋だ！

秋深む隣室の風鈴の音
　虫の声のごと

隣室の風鈴の音
　難聴の吾の耳にも心地よく

昼下がりのこの館今静かなり
　物音一つだになし

九十路（ここぞじ）の老婆
　一人居の部屋で
　一人でさんびし、
　一人で祈り
　一人で語っている

信仰の杖を頼りに
　転ばぬ様つまずかぬように
　歩きます

近況報告

荘長　有馬　歳弘

「にじのいえ信愛荘」を覚えてお祈りと献金をしていただきまして感謝をいたします。

猛烈な夏でした。「暑いですね」がまるで合言葉のようでした。今は、秋の風を感じてひと息ついています。中庭の真ん中に植えられた「花水木」が紅葉しています。周りはまだ緑ですので目立っています。特に一番上の葉っぱは太陽の光を受けて輝いています。見た人は思わず「綺麗」と声を出します。もうすぐ夜露を受けた葉が霜になって白くなる季節になるのでしょう。四季の移り変わりは健康美を感じます。

行事計画

・御岳山登頂は天候に足止めされていましたが、つい先日、やっと実行することが出来ました。ケーブルで登り、頂上から見渡せる景色に満足しました。

秋の紅葉狩りをしたいとの希望を聞いています。その時は景色を見ながら、食事も外で楽しみたいとスタッフでは考えています。どんな計画が生れますか、楽しみです。

・今年も「にじのいえ信愛荘」主催のクリスマス行事を予定しています。荘員の中から準備のため3名の方を選んでいただいて、一緒に相談しながら進めています。できるだけ在荘の方々に分担して頂くようにと思っていますが、役割分担が順調に決められています。大勢の方々をお迎えして主の御降誕をお祝いしたいと願っています。

毎月「お茶の会」が持たれています。この働きはボランティアの方々によって続けられています。みなさん楽しみにしておられます。

職員のことについて

・萩生田明氏は、施設長としての1年の契約期間を終了して、来年3月まで施設長補佐をして頂きながら、管理業務をお願いすることになりました。

・宮北京子介護主任は、定年をむかえられるため今年限りで退職されます。「にじのいえ」での働きに続いて合併後も優れた働きをしてくださいましたので淋しくなります。退職後は北海道余市に帰郷されます。今までのお働きに感謝いたします。

・大野るり子姉が7月1日より、生活主任として就任されました。荘員の皆様との交流も豊かにしながら、大切な責務を果たしておられます。

新年からはもう一人加えられる予定です。これで、生活・介護主任が揃って、安心してお世話ができます。

新しく入荘された仲間

・山添和加姉、6月3日に入荘されました。穏やかなお人柄で、段々新しい環境にも馴染んでおられます。

・浅野悦昭牧師、10月2日に入荘されました。都内の教会でお働きでしたので、関係の方々が訪問してくださっています。

在荘の皆様は大きな変化はありません。定期的に病院に通っておられる方、月1回荘に医師が来てくださって健康診断を受けています。

たくさんの教会、グループの訪問を受けています。それぞれに楽しいプログラムを用意して楽しませてくださいました。感謝をいたします。

御岳山遠足

伊藤　卓江

秋晴れの10月30日、青梅御岳山へ皆で遠足しました。ケーブルカーのホームも45段あるとのことで、「私は駄目かな」と思いながらも「行けるうちに行きたい」とのぞみました。

荘から滝本駅まで3台の車で30分、ケーブルカーは車内も階段状で「まず座ることだ」と座を占めました。山頂は800mだそうで、林間の木々に手が届きそうで、若々しくきれいでした。

山頂は小公園になっていて遠景が見事でした。土産物の店などもあるので、散策組と参道を歩く組、途中で引き返す組など三手に分かれ行動しました。

「自分は行かれる」と思っても引き返す人、「いや、ついていかないと困るよ」と思う人などいろいろでした。とにかく木立の中を歩けるのはとても気持ちのよいものでした。

山頂の小公園では遠望を楽しみながら、りんごやチョコレート他、色々の心づくしを頂きましたし、帰りはお饅頭やお茶を頂いて、心も身体も養われる思いがしました。

公園でとって頂いた写真を見ながら「なあんだ皆、若いじゃん！元気そうじゃない」、「また自然の中に行きたいわねえ」と思いました。「楽しかったですね」、「また遠足に行きたいですね」と。

筆者　前列左

㊟　荘では、初めて「御岳山ケーブルカー登山」を企画しました。希望者の11名は、5名のスタッフと共に御岳山頂まで登山し、自然を満喫されました。

新・スタッフ／運営委員

生活主任
大野るり子
（上福岡教会）

「あなたがどこに行っても、
あなたの神、主は共にいる」
（ヨシュア記1・9）

生活主任として働き始めています。今までは、介護付有料老人ホームで、介護支援専門員として勤務していましたが、7月から、自然豊かな美しい「にじのいえ信愛荘」に導かれ、感謝の毎日です。民間の施設との違いは、運営委員の方、全国の教会、信徒の方、婦人会に支えられていることです。感謝と祈りを忘れず努めます。よろしくお願い申し上げます。

「にじのいえ
信愛荘」運営委員
内堀　怜子
（西東京・相愛教会）

西東京教区常置委員会の推薦を受け、運営委員を拝命いたしました。募金担当として、主の御旨のままに用いられますことを願っています。よろしくお願い申し上げます。

「にじのいえ信愛荘」クリスマス礼拝・祝会

荘では恒例の「クリスマス礼拝・祝会」を、荘内の準備委員会が計画しています。

今年度は12月26日（木）に、長山信夫師（東京・銀座教会）を礼拝説教者としてお迎えして礼拝を捧げた後、入荘の方がたと出席者は主のご降誕を祝い、共に賛美し、主にある和やかなひとときを楽しみつつ、親交を深められることでしょう。

維持献金
クリスマス献金のお願い

「にじのいえ信愛荘」を今後も継続的に維持、運営していくために一人でも多くの皆さまからの維持献金のご協力をお願いしています。専用の献金袋（個人）もありますのでご利用の上、各教会でまとめてご送金ください。また、クリスマス献金もなにとぞご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

・振込口座番号
00120―3―358467
振込用紙／専用献金袋は
にじのいえ信愛荘事務局まで
TEL　0428―22―2283

荘日記

施設長補佐　萩生田　明

●2013年5月
1日(水)防火設備点検
3日(金)成松三千子委員宿直奉仕
6日(月)スタッフ会議
　定例お茶会(22名)
10日(金)吉田和子姉宿直奉仕
17日(金)浅見多恵子姉宿直奉仕
　居室手摺増設工事
22日(水)東村山教会訪問(13名)
23日(木)井上医院健診
24日(金)池田節子姉宿直奉仕
27日(月)誕生会・相談会
31日(金)朝岡瑞子委員宿直奉仕

●2013年6月
3日(月)スタッフ会議
　山添和加姉入荘
　定例お茶会(15名)
7日(金)関口朝子姉宿直奉仕
8日(土)京葉中部教会訪問(21名)
9日(日)河辺伝道所合同礼拝
14日(金)金井弓子姉宿直奉仕
21日(金)ボイラータンク点検
　会田怜子姉宿直奉仕
24日(月)誕生会・相談会
27日(木)井上医院健診
28日(金)辻哲子師宿直奉仕

●2013年7月
1日(月)大野るり子生活主任就任
2日(火)スタッフ会議
　定例お茶会(20名)
4日(木)経堂緑岡教会訪問(15名)
6日(土)境南教会訪問(8名)
18日(木)池袋西教会訪問(15名)
　浴室照明交換工事
23日(火)防災訓練(15名)
　黒田愛子師入院
25日(木)井上医院健診
29日(月)誕生会・相談会

●2013年8月
3日(土)大里和子姉召天(5日葬儀)
5日(月)スタッフ会議
12日(月)安間一雄兄笛演奏会
20日(火)エレベーター補修工事
22日(木)井上医院健診
26日(月)誕生会・相談会

●2013年9月
2日(月)スタッフ会議
　定例お茶会(25名)
26日(木)井上医院健診
27日(金)婦人会連合訪問(30名)
29日(日)教区秋季墓前礼拝(6名)
30日(月)誕生会・相談会

●2013年10月
2日(水)浅野悦昭師入荘
7日(月)スタッフ会議
　定例お茶会(22名)
14日(月)喬木教会訪問(15名)
　井草教会ワークキャンプ(14名)
17日(木)下谷教会婦人会訪問(7名)
24日(木)井上医院健診
25日(金)西東京教区婦人委員会(8名)、中庭植栽補充
26日(土)河辺伝道所訪問(22名)
　浴槽手摺補修工事
28日(月)誕生会・相談会
29日(火)安藤記念教会訪問(6名)
30日(水)御岳山登山(16名)
31日(木)防災訓練(21名)
　(他に岩戸五郎兄・野口信一兄・和久井義夫兄の宿直奉仕あり)

荘員数は23名、内訳は隠退教師14名・配偶者9名、女性18名・男性5名、平均年齢82歳です。寝食を共にする信仰共同体また「神の家族」と言えます。

入荘時はご健康で自立したご生活でしたが、高齢化に伴い、職員による日常生活支援(通院付添送迎など)および居宅介護支援事業者による介護サービスを受ける方が増加しています。

入荘者の安全確保のため、防災訓練の充実、水食糧の備蓄、手摺の増設などを進めました。

長年伝道牧会に労された先生方が主の平安のうちに日々過ごされますようにお祈りください。

あとがき

「青梅のにじ」第8号をお届けします。ご執筆くださいました皆さまには心から感謝申し上げます。

委員会では、ご入荘の皆さまに原稿をご依頼して書いていただくだけでなく、ご入荘者からご投稿していただければと思います。今回、荘で自ら最高年齢とおっしゃる飛田先生のエッセイが第1号となりました。感謝です。

お支えくださる読者の皆さまにも親しく身近な広報誌を目指していますので、ご感想やご意見もどうぞお寄せください。

また「青梅のにじ」をとおして、「にじのいえ信愛荘」を全国の教会・伝道所の皆さまにご理解いただき、ご支援とご協力をお願いする次第です。

「神は独り子をこの世にお与えになった」この大いなる愛が示されたクリスマスを、全世界の教会が共に祝う喜びの時を迎えています。

寒さに向かい、特に自然災害による被災地の皆様のご健康が守られますよう祈っております。

(成松三千子)